

# 発電所だより

9月号

平成24年9月発行 東北電力株式会社女川原子力発電所総務部広報グループ 女川町塚浜字前田1 電話0225-53-3111 原子力の情報をホームページで公開しています。 <http://www.tehoku-epco.co.jp>

## 《 IAEA 派遣団による耐震等性能の調査について》

7月30日から8月9日にかけて、国際原子力機関（IAEA）の派遣団が女川原子力発電所を訪れ、東日本大震災による建物などの構造物、系統および機器への影響調査が行われました。

今回の調査は、東日本大震災において、大きな地震に見舞われたにもかかわらず、被害が少なかった女川原子力発電所における地震等の影響に関するデータを収集し、IAEA加盟国間で共有・活用することを目的として行われたものです。

派遣団は、スジット・サマダー IAEA 耐震安全センター長を団長に、地震工学や原子力安全の専門家など20人で構成され、発電所内で実際に震災被害のあった現場の確認

や発電所員への震災時の運転状況の聞き取りなどを通してデータ収集が行われました。

調査終了後に東京で行われた IAEA の発表では、以下のような説明がありました。

- 女川1～3号機において、地震時に安全確保上重要な設備はもとよりその他の設備も適切に機能したことを確認した
- あれだけの地震動にも関わらず構造物・機器については驚くほど影響を受けていないというのが今回の結論である

今回の調査結果は、今後、IAEAによりデータベース化され、IAEA加盟国における原子力発電所の安全性向上のための知見として生かされていくこととなります。



震災時の様子について説明する津幡所長



震災時、海水が流入した2号機原子炉建屋附属棟の調査風景



防潮堤を上り津波の影響がないことを確認する派遣団



当社社員からの聞き取りの様子

## 《女川原子力発電所の状況について》

東北地方太平洋沖地震により、女川原子力発電所の全号機は設計どおりに自動停止し、安定した状態で安全に停止しています。現在、定期検査を実施し、設備点検、復旧作業等を進めています。

現在実施している定期検査の7月分として、トラブルおよびトラブルに該当しない軽度な事象はありませんでした。

地震および津波による女川原子力発電所の主要設備への軽微な被害の対応として、

7月中に新たに復旧したものはありません。これまでに計61件のうち51件の対応が完了しています。

### 【発電所の運転状況（8月末現在）】

号機	運転状況	主な動き
1号機	定期検査中	平成23年9月10日より第20回定期検査を実施しています
2号機	定期検査中	平成22年11月6日より第11回定期検査を実施しています
3号機	定期検査中	平成23年9月10日より第7回定期検査を実施しています

## 《3号機 チャンネルボックス上部の一部欠損について》

女川原子力発電所3号機において、東北地方太平洋沖地震による原子炉内に装荷された燃料への影響を確認するため、外観点検を実施していたところ、燃料集合体を覆っているチャンネルボックス※1 1本の上部（クリップ※2 接合部）に欠損を発見しました。

これを受け、3号機の使用済燃料プールに貯蔵されている全燃料1,386体について点検を実施したところ、18体の燃料のチャンネルボックス上部クリップ接合部に同様の一部欠損（最大で長さ約2.6cm）があることを確認しました。

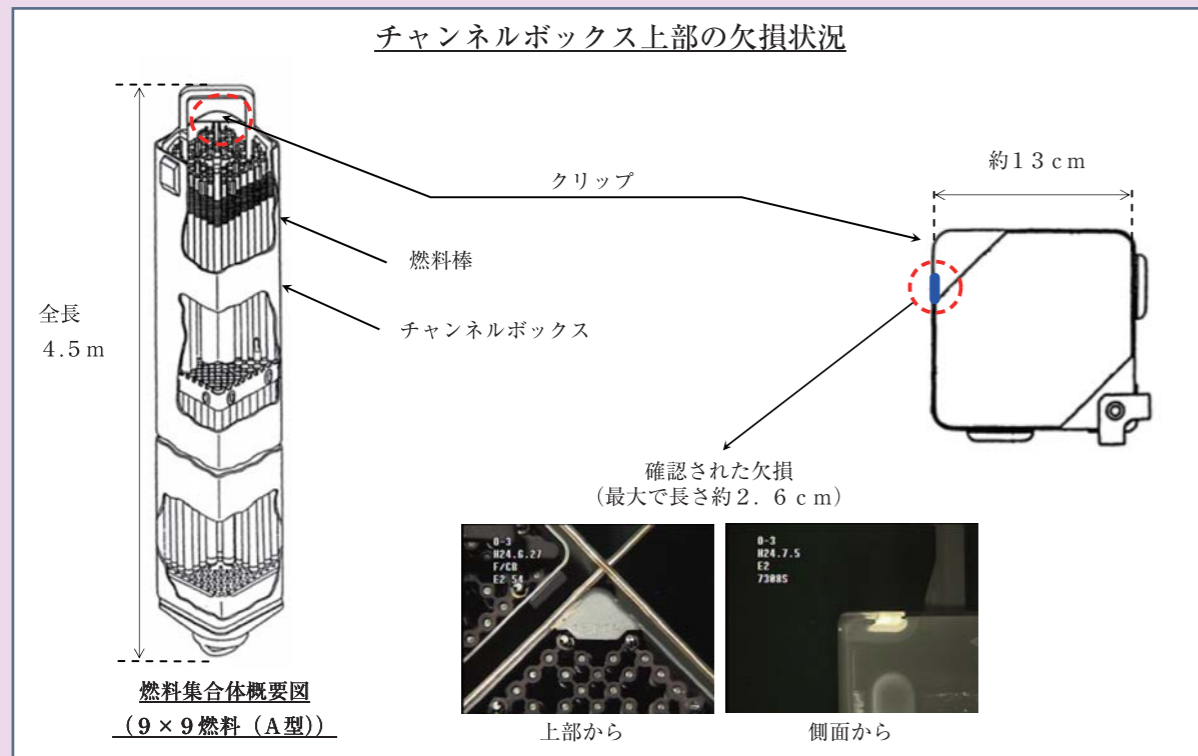
これらの欠損は、チャンネルボックスの機能へ影響を与えるものではありません。また、欠損によって生じた金属片（かけら）が、原子炉等へ影響を与えることもありません。

欠損が発生した要因は、現時点で「製造時の溶接不良」と「燃料等移動時の接触」の2つに絞り込みました。

今後、1、2号機についても計画的に点検等を実施していくとともに、引き続き発生要因の更なる分析を行い、原因の究明ならびに再発防止対策を検討してまいります。

※1 燃料集合体を覆っている四角い筒状のもので、燃料集合体内の冷却材流路を確保するとともに制御棒のガイド等の機能を持っている

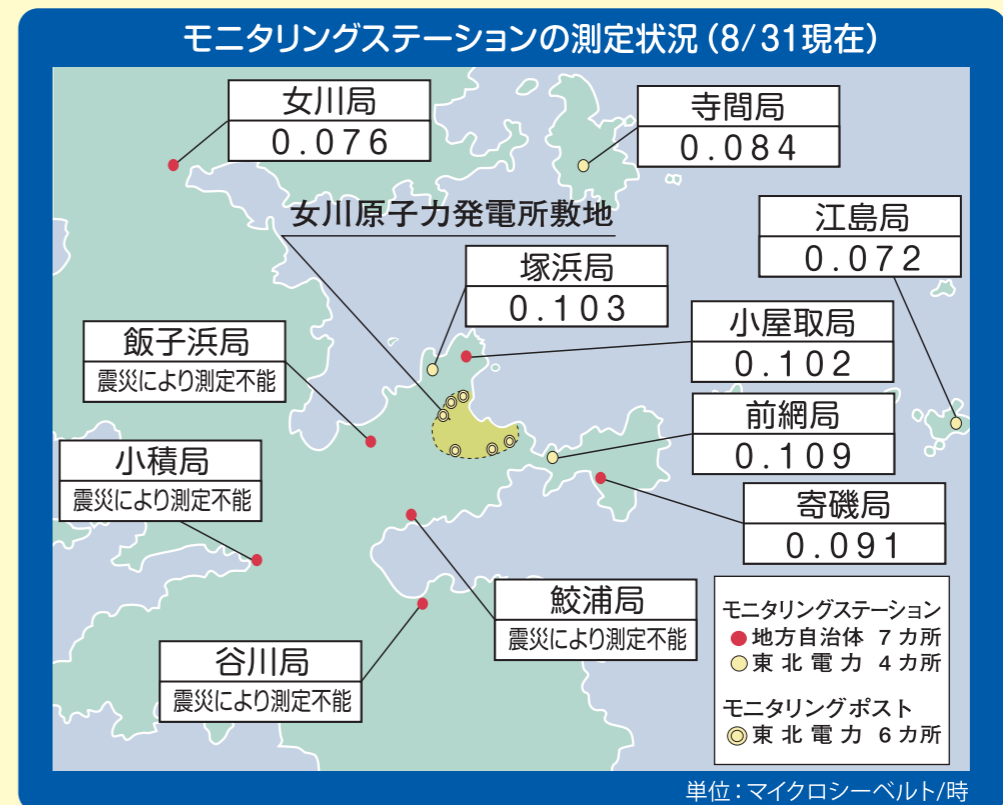
※2 燃料集合体からチャンネルボックスを着脱する際に工具を取り付けるための部位



## 《女川原子力発電所周辺の放射線》

女川原子力発電所周辺の放射線はモニタリングポスト※1やモニタリングステーション※2で測定・監視しており、その測定値は宮城県および当社のホームページで公開しています。

発電所敷地内に設置してあるモニタリングポストの現在の測定値は、東京電力福島第一原子力発電所からの放射性物質の放出に伴い、震災前よりも若干高い値を示していますが、最大で0.084マイクロシーベルト/時程度で安定しており、健康に影響を与えるレベルではありません。



※1 モニタリングポストは発電所敷地周辺の環境放射線を測定しています。女川原子力発電所の敷地境界には6基のモニタリングポストが設置されており、その最小値と最大値について、東北地方太平洋沖地震の発生日の値、それ以降で最大値が測定された日の値、至近6カ月の値を掲載しています。

※2 モニタリングステーションは環境放射線に加えて空気中の放射性物質の濃度や気象データを測定しています。

※3 21マイクロシーベルト/時が測定されたのは約10分間です。

### モニタリングポストの最小値と最大値

年	日	最小値～最大値
平成23年	3月11日	0.027～0.064
	3月13日	1.8～21※3
平成24年	3月1日	0.060～0.094
	4月1日	0.063～0.098
	5月1日	0.062～0.090
	6月1日	0.060～0.088
	7月1日	0.059～0.086
	8月1日	0.060～0.085
	8月31日	0.060～0.084

単位：マイクロシーベルト/時